

令和 4 年度第 2 回広島市都市デザインアドバイザー会議 会議要旨（抜粋）

1 開催日時

令和4年（2022年）10月26日（水）15時00分～17時10分

2 開催場所

JMSアステールプラザ4階大会議室A・B

3 出席者

出席委員（6名）

今川 朱美、角倉 英明、田中 貴宏、柏尾 浩一郎、吉田 幸弘、塚本 梓織

欠席委員（1名）

高田 由美

4 議事

(1)、(2) 省略

(3) 広島城三の丸歴史館新築工事について（1 回目会議）

その他報告 省略

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者

省略

7 会議資料

会議次第、委員名簿、出席者名簿、配席図、議事資料

8 会議要旨

(1)、(2) 省略

(3) 議事(3)広島城三の丸歴史館新築工事について

議事内容の説明を行い、デザイン上の配慮事項に関する御提案をいただいた。

今後の検討事項は次のとおり。

ア 広島城天守への軸の位置について

- ・特に 1 階において、軸を共用部の中心に設定する等、軸が意識できる平面計画となるよう検討する。

イ 歴史館からの景観（眺望）について

- ・ 2 階展望ラウンジからの天守閣の見え方を確認する。
- ・ 1 階広島城天守への軸線上からの天守閣の見え方を確認する。

ウ 外部からの見え方を配慮したガラスの使い方について

- ・ 歴史館の内部及び外部からの視認の必要性を再検討し、ガラスの仕上げを検討する。

エ 周辺事業（P-PFI など）と調和した屋外空間について

- ・ 舗装や溜まり空間などの屋外空間について、周辺事業と連携し調和のとれたデザインとなるよう検討する。

(4) 省略

【会議概要】

議事(3)のみ抜粋

○田中座長

それでは、本日の議事(3)「広島城三の丸歴史館新築工事について（1回目）」の説明をお願いします。

○橋本施設整備担当課長・設計業務委託者（㈱山下設計関西支社設計監理部小原氏）

（議事(3)「広島城三の丸歴史館新築工事について（1回目）」の説明）

○田中座長

ただいまの説明に対して、設計方針やデザイン上の配慮事項に関する御提案や御質問等、があればお願いしたい。

○角倉委員

広島城天守への軸をつくること自体は、このエリアにとって非常に重要だと思う。

2階の展望ラウンジでは、何を展望するのか。

○設計業務委託者（㈱山下設計関西支社設計監理部小原氏）

展望ラウンジからは、広島城天守をメインに見ていただく予定である。

○角倉委員

そうすると恐らく、この平面計画でいうと、建物の西側の石垣がL字に凹んでいる辺が一番きれいに見えるのであって、恐らく展望ラウンジに行くと、石垣が目の前に来て、その上の木の裏に天守閣が出てくる程度で、そこまで展望感がないのではないかな。

もし、展望をするのであれば、そもそも平面計画のレイアウト自体を少し変更したほうがいいのではないかな。高さも数メートル上がるぐらいで、見えたとしても天守の上部の数層分しか見えないのではないかな。全貌はよく分らないだろう。

○橋本施設整備担当課長

展望ラウンジの高さは、4～5mほどである。展望ラウンジから真正面を見ると、樹木により隠れてはいるが、護国神社の屋根が見える。その少し斜め上に天守閣が見えるだろう。

反対側の城南通りから見た限りでは、道路から見ると天守は隠れている。歴史館裏側の2階から見ると、天守は確認できると思うが、また見え方は確認したい。

○角倉委員

せっかく天守閣を見せるのであれば、やはり全貌を見せたほうがいい。

○吉田委員

広島城天守への軸を設定したことは、非常にいいことだと思う。展望スペースもそうであるが、1階の共用エリアからの天守の見え方のシミュレーションはできているか。

○橋本施設整備担当課長

1階から天守を見上げると、護国神社の屋根がかかり、天守の屋根が見えるか見えないか程度であると思う。2階からだと、天守がもう少し見えてくると思う。

○吉田委員

平面図上で、広島城天守への軸の中心線はどこに位置するのか。それを図示していただくと非常にイメージが付きやすい。

今の軸は幅が広い。建物の中のエレベーターや階段が、軸と重なってくるのか、それをうまく逃がっているのか、どういう位置関係なのか知りたい。

○設計業務委託者（㈱山下設計関西支社設計監理部小原氏）

エレベーターや、階段、共用部との位置関係や、また実際の天守の中心からの軸がどこになるかは、もう少し厳密に検証した上で、最終的に落とし込んでいきたい。

○吉田委員

1階共用部はトンネル状になっているので、その中心線上に軸線が重なっているのが理想である。ただ、階段やエレベーターを少し軸線とずらすような工夫も必要ではないか。

広島城を中心とした軸線は、広島においては江戸時代までの一番重要な軸線である。現在は、南側のメルパルクなどの建物により、この軸がほとんど感じられないような状況であるので、原爆ドームと慰霊碑を軸とした南北の軸線があるが、それ以前の、もう一つの軸線にスポットを当てると建物と空間になると非常にいいと思う。

○設計業務委託者（㈱山下設計関西支社設計監理部小原氏）

先ほどの眺望ラウンジの見え方については、今後、詳細なシミュレーション等の検証が必要と思っているが、以前ここにあった公衆トイレの前からは、地上レベルからも天守は確認できた。広島城天守への軸から少し東にずれた位置であったので、この軸上からどう見えるかについては、護国神社の植栽の関係を整理し、天守閣がしっかり見えるような眺望ラウンジにしたい。

○吉田委員

1階は、平面図上でしっかり軸を明示し、2階の眺望ラウンジでは、もう少し広島城の全体像が把握できるようにして、1階と2階を軸と眺望で考え方を分けてもいいのかもしれない。

○今川委員

これから七五三のシーズンだが、この広島城天守への軸上でよく記念撮影が行われている。この場所から天守が見えるか分からないが、多くの子供たちが写真を撮るスポットの一つであったと思う。今まで撮影スポットとして、市民に親しまれてきたこの場所に歴史館が建つことで、撮影スポットがなくなってしまったとなると、子供たちが気の毒である。

また、この御門橋は、成人式の前撮りスポットでもある。振り袖を着た子がここで撮影した写真がSNSなどに上がっている。そういう形で、広島城は若い世代の人々に親しまれてきた。歴史館のような立派な建物ができること自体は、非常に喜ばしいが、撮影スポットとして、この場を愛してきた人々に対し、代替の場所を用意しておく必要があるのではないかな。

○橋本施設整備担当課長

御門橋の前での撮影については、御門橋の護岸エリアと建物は11mほど離れる予定であるので、御門橋の上に立った人を撮影するということであれば、この範囲の中で撮影できるだろう。

○今川委員

今まで何もなかったから恥ずかしげもなく撮れたのであって、歴史館に人が集まるとなる

と、そこで写真を撮りたいと思う女の子たちがいなくなるだろう。しかも展望をするために、壁面がガラス張りで、中から誰が見ているかもしれないとなると、どうなのだろうか。

撮影スポットとしてのニーズに対して、ここで撮れないのであれば、他のこっそり撮れる場所を用意してあげることはできないのか。

○橋本施設整備担当課長

このエリアにこの規模の建物が必要だということはもう決まっている。

○今川委員

御門橋側の東壁面について、建物内から、この門を見るつもりで、1階も2階もガラス張りとしているのか。例えば一階をクローズドにしてしまえば、あまり建物内からの視線を感じないので、御門橋で記念撮影をするというニーズが引き継がれるかもしれない。そういった形で広島城と私という関わりを持ってきた広島市民は一定数いると思う。遠足で行った資料館や、見に行った広島城という形で市民の心に残る形と、私の大事なイベントに撮影をした場所という形で心に残るのと、広島城にとってはどっちがいいのだろうか。

○設計業務委託者（㈱山下設計関西支社設計監理部小原氏）

東面をガラスの開口としているのは、眺望という話もあるが、2階の展示空間で歴史を学んだ上で、実際の天守閣や二の丸の櫓を見る、動線上切れることなく展示物と実際の建物を感じることができる。要は建物に入り、展示だけ見て出るのではなく、外の風景も含め、展示の一連の流れに入っているという空間をつくることも、せっかくこの場に立つものとして、かなり重要であると考えている。

1階についても、本当に東面を全部ガラス張りにしたほうがいいのかというのは、もう少し検討が必要かもしれないが、御門橋から建物の間を11m程度離しているが、10m強の高さの建物が建つので、やはり圧迫感が多少ある。これに対し、壁面をガラス張りにすることで、壁面が少し後退して見え、圧迫感の軽減に繋がるとも考えている。

そして、ここをガラスでなく壁で区切ってしまうと、ペDESTリアンデッキから御門橋や、二の丸に抜けていく動線が分かりにくくなってしまう。この動線の視認性や、それぞれのつながりも、ここの空間ではかなり重要であると考えて、視認性の高いガラスを採用している。

○柏尾委員

建物本体とその周りの部分、ペDESTリアンデッキとの接続などについては、今回の議事とは別になるのか。

○橋本施設整備担当課長

ペDESTリアンデッキは既に建設中であり、今回の会議からは外していただきたい。

高さが、橋脚の下で5m以上必要なので、高さ的には7mほどの橋がだんだん下がっていくというイメージを持ってもらいたい。多少デザインされた陸橋のようなものがおりてくると考えていただきたい。

○柏尾委員

ペDESTリアンデッキや歴史館周辺、御門橋前のスペースの舗装面について、地面の連動を留意いただきたい。

博物館の色彩や素材については、大きな問題は持っていないが、材料の高騰で、例えば、

屋根材が高騰していると思うが、予算内で収まるのかが気になるところではある。

○塚本委員

ガラス張りの部分について、内側から外を見るためにガラスである必要性があることは理解できたが、外から見たときに、ガラス張りである必要がないという箇所があるのではないか。この見える必要がない箇所については、格子の入れ方やガラスの素材などで少しデザインの的に分けてみてはどうか。

○設計業務委託者（株山下設計関西支社設計監理部小原氏）

検討させていただきたい。

○田中座長

外構のところで、たまり空間を2か所設計されているが、実際に何かイメージはあるか。

○設計業務委託者（株山下設計関西支社設計監理部小原氏）

今回の事業外なので詳しくは説明していないが、外部については、周りにあるPark-PFIと一体的に計画する必要がある。ペDESTリアンデッキから二の丸の御門橋へ抜けていく動線沿いに少し、とどまれる空間をつくりたいと考えている。これまで、この場所にあった植栽の下ベンチで、お城を見ながら休憩をしていたという方に対し、歴史館ができた後も、少し風景や形は変わってしまうが、引き続き休めるスペースや、少し立ち寄れる空間をつくりたい。

○田中座長

そのあたりのことは、今回の事業の中でも少し考えられるのか。

○設計業務委託者（株山下設計関西支社設計監理部小原氏）

Park-PFIともやり取りをしながら一体的につくっていくという話にはなっている。

○田中座長

エリアの回遊性などを考えたときに、非常に大事だと思うので、Park-PFIとしっかり連携していただきたい。

それでは、皆様から意見を頂けたと思うので、まとめをさせていただく。

一点目は、広島城天守への軸について、軸線が建築の平面図の中にどう落ちてくるのか、この計画とどのように整合するのかについて検討いただきたいということ。

二点目は、景観の話である。やはり景観的に優れたエリアであるので、これは次のステップかと思うが、実際にそれぞれの場所で、どういった景観が広がるのか、シミュレーションをしていただきたい。シミュレーションがあることで、ここの場所の大事さ、新しくできる場所としての意味などを多くの人が納得しやすくなるだろう。

三点目が、ガラス張りについて、視認の必要性を踏まえたガラスの素材について、検討していただきたいということ。

最後の四点目は、ここは、様々な出来事や人それぞれの思い出がある場所である。それをどう引き継いでいくか、また、どう新しいものをつくっていくかについては、取捨選択なのだと思う。そこで、ここで新しい思い出がつけられるようになればいいと考え、やはり屋外空間の境界部分のデザインをいかに魅力的な空間にするかが、一つ重要なポイントになると思うので、この屋外のたまり空間のデザインを配慮いただきたい。これは、先ほど柏尾委員が言っていた舗装の連続性にもつながってくると思う。

○今川委員

追加で質問がある。今回の事業範囲は、赤の二点鎖線で囲まれた部分であるか。であれば、東側つまり空間の南側、堀の横のところ、今は白紙であるが、次回イメージを見せていただきたい。

○設計業務委託者（㈱山下設計関西支社設計監理部小原氏）

Park-PFIと合わせて計画をするため、次回、そのタイミングが合うかは分からないが、そこも今回の事業の中で計画をすることにはなっている。

○今川委員

デザインのすり合わせや、確認業務はされているか。

○橋本施設整備担当課長

主管課でまとめている。Park-PFIの提案とすり合わせて、協議を進める予定である。

○今川委員

2階の展望ラウンジからの見え方が気になる。広島城天守への軸からはどのように見えるのか、ドローンなどで撮影できないか。

○橋本施設整備担当課長

検討する。

○田中座長

前半の話について、先ほどの繰り返しになるが、賑わいづくりを考えると、この境界の部分は非常に大事であるので、Park-PFIとの相互のコミュニケーションをしっかりとっていただきたいと思う。

議事(3)については以上である。